

2010-2011

WEEKLY REPORT

ROTARY CLUB OF NAGOYA MEINAN

URL <http://www.meinan-rotary.com> E-mail info@meinan-rotary.com



地域を育み、大地をつなぐ

2010-2011 年度 RI 会長 レイ・クリンギンミス

名古屋名南ロータリークラブ

■承認 / 1991年3月8日 ■例会日 / 火曜日・PM6:30 ■例会場 / 名古屋マリオットアソシアホテル
■会長 / 太田 敦士 ■幹事 / 吉木 邦男 ■会報・雑誌・広報委員長 / 三島多恵子
■事務局 / 〒450-6002 名古屋市中村区名駅1丁目1番4号 名古屋マリオットアソシアホテル 2202号
TEL.052-586-2043 FAX.052-586-2054

第929回

2010年10月26日(火) 晴 第16回

～ 職業奉仕月間・米山月間～

斉唱	それこそロータリー
出席	会員 65名 (出席率算入人数 57名) 出席 40名 出席率 70.18% 前々回補填率 98.36%(10月12日分)
ゲスト	学校法人セムイ学園 専任講師 于咏さん(名古屋中 RC 元米山奨学生)
ビジター	尾張旭 RC 舟橋 龍秀さん

会長あいさつ

会長 太田 敦士さん

皆さん、こんばんは。

今日は多少時間がありますので仕事の話をしようと思います。我々建設業界は大変な不況でありまして、建設コストがすごく下がっております。この間も福祉施設の入札で当社の予算が1億4000万、落札価格は8900万ということで市の規定に抵触するのではないかとと思われるほどの値段が現状になっています。



その中でも比較的堅調なのが建売等の住居系です。あとは高齢者の居住空間で、特別養護老人ホームやグループホームです。また、当社でも一番計画が多いのが高優賃と言われる、高齢者向けの専用賃貸住宅で、自立型や介護型や適合高専賃の計画が非常に増えております。その他当社では知的障害者の最終的な住まいということで、ケアホームというのをやっております。これも不足しております。知的障害を持った子供達が加齢していても、最後まで安心して暮らせる家を作ってほしいという親からの要望が非常に多くなってきております。しかし、部屋数が多いものは認められず、男子用6戸、女子用6戸の計12戸程度の建物が現状です。

これは高齢者にしても知的障害者にしても政治が変わらないと何ともなりません。高齢者施設に関しても国の政策として在宅介護が基本ということで、施設を造ることを良しとしません。何万人という特養の待機者がいたり、高所得者向けの優良老人ホームですと、高いところは億に達するような一時金がある所もあり、通常でも月々24～25万は費用がかかる状態です。

高専賃などは月収20～25万位の層をターゲットにしています。20年位しますと、団塊の世代が後期高

齢者になります。後期高齢者といいますが大体入居される年齢は80歳前後です。70代だとまだ自立型です。当社でも先日、北区黒川にマンションですが自立型の高専賃に近い形のを建てました。高専賃というのは、福祉施設ではなくて、マンションであったり、寄宿舍のような扱いになります。

恐らく建設業界はあと2年位は駄目でしょうし、このような仕事が増えると思っております。自分もそろそろ前期高齢者になるものですから、このような仕事をするのも自分の為にも良いのではないかと思っております。

副幹事報告

副幹事 入谷 直行さん

1. ロータリーレートが11月から82円になります。10月までは86円でしたので、4円変わります。
2. 11月2日の次回例会はゆったり例会で18時30分からアンティカローマで行います。お間違いの無いようお願い致します。

ニコボックス

- ◆ 元米山奨学生于咏さんの卓話です。楽しみにしております。

白銀 義昭さん 榊原 和美さん 江村 雅夫さん
 江上 隆夫さん 浅井 浩さん 新原 尚さん
 三浦 和人さん 小野 雅之さん 山本 誠一さん
 宮澤 伸光さん 牧野 好弘さん 中村 勝さん
 東山 直史さん 武藤 正行さん 木下 福郎さん
 三島多恵子さん 大橋 さなえさん 中西 芳子さん
 猪村 美之さん 坂田 信子さん 犬飼りさ枝さん
 川村 繁生さん 林 隆二さん 川辺 清次さん
 鈴井 一博さん 伊藤 圭一さん 太田 敦士さん
 山崎 淳さん 黒田 康正さん 坂本 晃さん
 久米 伸治さん

- ◆ 東京錦糸町にて駅前事務所ビル設計コンペ一等賞受注出来ました。尚、于咏さんの訪問を心より歓迎申し上げます。卓話ががんばってね！

小山 慎介さん

- ◆ 日韓文化交流いけばなの会の花展がソウルで開催され、私も参加してまいりました。この交流もお陰様で30年続いております。これからも頑張りたいと思っております。堀田 光江さん

- ◆ 当社、年末おせち料理が決まりました。パンフレット等配布させていただきます。お値打ち価格にさせていただきますので是非、御賞味下さい。現在、サラダの20g増量全国キャンペーンも実施しますので、お近くのスーパーへ！ 加藤 英敏さん

本日合計 36,000 円 累計 744,000 円

米山記念奨学委員会卓話

■米山記念奨学委員会 委員長 犬飼りさ枝さん

皆さま、こんばんは。今から卓話をしていただく于咏さんをご紹介します。

中国の天津から、中RCで2005年～2007年までの奨学生として勉強されておりました。詳しい内容はご自身でパワーポイントを使って自己紹介していただきます。



色々楽しい話を聞きながら、米山で皆さまからいただいた寄付がどんなに役立っているか、また、もしお忘れの方がいましたら是非今月中に寄付をよろしくお願い致します。

■学校法人セムイ学園 専任講師 于 咏 様

私は中国・天津の出身で、14年前の1996年9月に日本へ来ました。日本に来た時には日本語は話せず、愛知淑徳大学の留学生別科で1年半日本語の勉強をし、1998年4月に日本語能力試験の1級に合格し、名古屋大学教育学部に入學し、臨床心理学を専攻して丸10年間名古屋大学にいました。米山にお世話になりロータリアンと密に接するようになったのは博士課程の2年生、2005年4月～2007年3月の2年間で、米山奨学生として中RCにお世話になりました。2008年4月に卒業してから今現在も学校法人セムイ学園で心理学の専任講師として勤めております。医療系の専門学校ですが、経営者もロータリアンで港RCの野村先生という方です。



自分の専門分野を少し紹介致します。私は臨床心理学を専攻していて、現在は臨床心理士で博士号も持っています。カウンセリングや心理治療をすることが専門です。活動内容としては、精神障害や発達障害等の検査や治療を行います。私は大学院内の心理相談室で学生をやりながら外来でも色々な方のカウンセリングをやってきました。今現在も学生相談をしています。具体的にどんな治療をしてきたかと言いますと、不登校、ひきこもり、大人の吃音、アルコール依存症、摂食障害等の治療を担当しています。クライアントは日本人だけではなく、英語による治療も行っていて、今年はカナダのアルコール依存症の方も治療していました。

私は米山奨学金のおかげで無事に勉強を終えて博士号ももらえました。今現在も学友としてロータリアンの皆様と交流しており、このことは自分の人生の中でも非常に大きなウェイトを占めており、生活の中でも大きな楽しみでもあるものなので、米山の話を見せていただきます。米山奨学事業は、日本最初のロータリークラブの創立に貢献した米山梅吉さ

んを記念して米山記念奨学事業となっております。発足は1967年で今から43年以上前です。ロータリー米山記念奨学会は、将来母国と日本との懸け橋となって国際社会で活躍する優秀な留学生を奨学することを目的としています。私も優秀な留学生に選ばれて大変光栄に思っております。この優秀とは、成績が上位であること、日本語が上手いこと、交流を積極的に行うことが条件だそうです。

今現在奨学生採用は年間800人、事業費は14.5億円（2009年度決算）と、日本では民間最大の奨学事業となっております。民間事業は沢山あり、私達留学生が一番困るのは経済的な問題で、どの奨学金に入るかは結構研究していますが、ロータリーの米山奨学金をもらえることは留学生の中でも大変光栄で名誉なことで、非常に競争の激しい奨学金になります。これまでに支援した奨学生数は累計で15000人以上、出身国は世界119の国と地域に及んでいます。これは本当に素晴らしいことであって、今現在中国では上海万博があり、世界で140数ヶ国参加していますが、この米山の事業だけで世界の80～90%に及んでいるということで素晴らしい事業となっております。留学生の支援は、未来に向かって平和の架け橋となっている尊い奉仕で、留学生にとっては一番ありがたい事業です。

この奨学金の意義は、留学生にとってと、日本という国にとっての2つの視点から見ていきたいと思えます。まず、留学生にとっては、言うまでも無く大変貴重な経済的支援です。私は日本に来た当初、日本語が話せなくて洗い場からスタートし、新聞配達もやってお金に苦労したのは確かです。だんだん余裕がでてきても、良くて時給1000円のアルバイトです。奨学金は毎月14万円もらえ、時間に換算すると140時間にもなります。1ヶ月140時間をアルバイトせずに勉強に専念できればどれくらい勉強できるかということです。他の奨学金もお金を出しているのと同じと言えますが、米山奨学金の特別なところは次の2つです。まず、ロータリアンとの交流ができることで、写真にあるように米山秋の研修会で有松絞りを見学したり、大須観音節分の七福神パレードに外国人として初めて参加しました。これはロータリーのご縁が無ければ参加できませんでした。また、今年1月にインドでポリオプラスの委員会があり日本全国のロータリアン達と一緒に参加しました。このようにロータリアンと有意義に交流することがあるからこそ、2つ目の個人を越えて、現在を越えてということが実現するわけです。どういふことかと言うと、私達は自分だけの世界ではなくて、社会のエリートであり人生の先輩のロータリアンの生きる姿、仕事に奉仕する姿を見ることができて、見習うことができるので、私達は自分の人生のモデリングができるのです。それを見習って、自分の現在を越えて人生像ができ上がります。そういうことができるから他の奨学金が幾ら高額でも比べられない意義があると私は自分で実感しております。

日本にとっての意義は、ロータリークラブは民間の組織ですが、このように若者を通して友愛の種を蒔いています。日本に興味があって、進んだものを学びに来る留学生達に支援を出していくこと、交流のチャンスを作っていくこと自体は民間外交になります。こういったことは本当に世界に平和の種

を蒔いていくと思います。最近特に領土問題で日中関係が悪化しています。報道で言われている反日感情は事実としてあると思います。しかし、報道されていることは政治の一面ではありますが、民間交流でロータリーにお世話になった世界中に15000人もいる留学生、中国でも数百人、数千人もいる私のような留学生は、知っている限り非常に親日であります。政府の報道によって決して動揺しているわけではありません。

今日のテーマでもあり、私の気持ちを表しているものとして「報恩・奉仕・繁栄」というある会社のモットーをお借りしました。「報恩」というのは、恩を知る、感謝の気持ちを持って恩返しをすることです。恩恵を受けて返そうとすることは中国人が特に大事に思っていることです。先ほどもお聞きしたのですが、面倒を見た奨学生がその後どういう風になっているか分からないと感ぜられる方もいらっしゃると思います。他の国の事情は分かりませんが、中国では今現在、中国米山学友会という組織が去年3月に全国で統合され、1回日の中国米山学友総会が開かれました。日本へ留学する又は米山奨学金を貰った100名近くが中国で集いました。そこには加納理事を含め4人のロータリアンも行かれ、4時間の日本語の会議を行いました。また今年2回目も行い、100名の会は今年は400名になりました。というのも、日本のロータリアンが250名近く行かれ、中国では170名くらいの学友が集まりました。その人たちは日本でも中国でも会ったことがありませんが、ロータリーの輪で一緒に集いました。そういうことで、決して帰ったら終わり、送ったら終わりということではなく、どこかで繋いでいき、返していくというのが世の中の動きではないかと私は思っています。これは「報恩」ということです。

次は「奉仕」ですが、仕事を通じて人々のため、社会のためになる。これはロータリアンの姿、求めている姿だと思います。また、「超我の奉仕」精神に私を含め学友みんなすごく恩を感じていて、私達もロータリアンになりたいと思っています。実際、奨学生で学友で今現在ロータリアンになっている子が何人もいます。つまりロータリーというのが人生の理想のモデルというように私達は見ているわけです。その中で微力でありながら、実は北京の米山学友会では、親に捨てられてどこにもいくところがない子が収容されている学校へ、毎週日曜日に日本語を教えに行くという事をやっています。皆仕事を持ちながら行っています。また、上海の米山学友会では安徽省の貧困地区の小学校へ援助に行くという話も聞いています。このようなボランティアの活動というのも皆様ロータリアンを見習って、中国の学友達は実践しているという試みだと思います。

そして、「繁栄」ですが、報恩の感謝の気持ちを抱えて実践として奉仕していけば、自然と繁栄していく結果になると信じているわけです。

最後はロータリアンに感謝をしていきたいと思えます。米山のマークは、重なり合うハートで「ロータリアン」と「奨学生」です。外国人留学生の支援・交流を通じ、国を越えた絆や信頼関係を築き、世界平和を願う心を育むということです。ハートで下は両手のマークはなっていて、世界平和の心を生み出す、つまり手から心が生み出されるという

ことと、事業はロータリアンの手で支えられる、つまり皆様の手で皆様の心で支えているということなのです。

私は、奨学生として卒業しましたが、学友としてロータリアンと手を繋いで、心を繋いで、皆さんに倣ってしっかり自分の人生も歩んで行きたいと思っておりますし、いつまでも皆さんに感謝したいと思っており、その感謝の形というのが自分も社会に貢献して少しでも社会に還元することによって皆さんのように立派に成長できるなら良いのかなと思っ

第 931 回例会 (11 月 9 日) のご案内

ロータリー財団委員会担当卓話
地区ロータリー財団副委員長 (地区補助金委員長)
松尾憲二郎さん